



私もスプーンおばさんになりたい！

神宮前小学校 四年一組 升田幸良

体がとても小さくなったら人間の世界ってどう見えるのだろう、例えば昆虫からみた自分はどううつっているのだろうと考えることがあります。この本の表紙を見たときに、きっとそれについてのお話書かかれているのだらうと思いましたが、でもこの本には、スプーンのサイズになったおばさんのマイペースな行動と楽しいハプニングが書かれていました。

スプーンおばさんは自分で小さくなりたいときになるのではなく、不意に小さくなってしまふのです。ですから家事に追われ忙しいときは大変なはずです。しかしスプーンおばさんはちっともあわてることなく工夫して切り抜けていくのです。その場面は、毎回おもしろくて印象に残ります。

そのシーズンの中で一番印象に残っていることがあります。それは、小さくなったおばさんが困ったときに動物をおだてたりして上手に切り抜けていく場面です。あまりにもおかしくて夢中になって読んでしまいました。また、そのとき思い出した本が、「ドリトル先生アフリカ行き」です。この本を読んだときにも動物と話せるドリトル先生に憧れました。私は動物と話してみたいと思うことがよくあります。なぜかという私は熱帯魚を飼っているのですが、もし魚と会話ができ

ればお世話をすることが今よりも少し楽になるだろうし、友だちのように何でも話せたらもっと楽しくなると思うからです。それを考えると、スプーンおばさんは、小さくなったときにしか動物と話せないのです、私はどちらかというどドリトル先生のようにいつでも話せた方が良いです。

それから、スプーンおばさんがすることできよう味があったことは、「コーヒーうらない」です。コップに残ったコーヒーのかすのもようでも占いをするのですが、私はそのような占いを見たことも聞いたこともなかったので私も試してみたくなりました。そしてお友達のコップを使ってお友達の運命を占ってみたいです。でも自分自身のことはこわいので占いたくないです。

最後に大好きなおじさんのために決めてあった誕生日プレゼントを手に入れるまでのお話は、いろいろなさいなんにあうスプーンおばさんに同情してしまいました。でもどんなさいなんにあってもおじさんの喜ぶ顔を楽しみにしてあきらめないで立ち向かうおばさんの姿を、読んでいて勇ましく思いました。私は、何でも簡単にあきらめてしまいがちですが、スプーンおばさんのように決してあきらめない気持ちは大切だと思いました。これからは、スプーンおばさんのたくましさやねばり強さを見習いたいと思います。